

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「寄り添う」「粘り強い」教育を実践し、生徒一人ひとりの夢の実現をサポートする。また、自らを高めるとともに、他者を尊重し、社会に貢献することのできる人材を育成する学校をめざす。

2 中期的目標

1 エンパワメントスクールの教育内容の確立

P D C A サイクルで組織的に取り組む。

ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを実施し、必要に応じて修正を加えながら行う。

イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う。

※ 学校教育自己診断において、「モジュール授業がよくわかる」の肯定的な意見の割合を 70%以上<H29 60%、H30 65%、H31 70%> (H28 59.4%)、「エンパワメントタイムに関する項目」の肯定的な意見の割合を 60%以上<H29 50%、H30 55%、H31 60%> (H28 44.4%) とする。

2 3つの力（新たな自分を創造する力、人間関係を大切にできる力、社会に貢献する力）を育む。

(1) 学習活動の充実

「わかる授業」「楽しい授業」をめざすとともに、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する。

※ グループ学習、少人数展開授業、公開授業、新しい教育機器活用等を通して授業力を向上させ、平成 31 年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を 4 段階中 3.20 以上にする。<H29 3.15、H30 3.18、H31 3.20> (H28 年度 3.13) また、授業アンケート「生徒意識 1」及び「生徒意識 2」の平均値 3.0 以上を維持する。(H28 年度 2.98、3.01)

(2) 特別活動の充実

体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動等の希望参加型行事を実施するとともに、部活動、生徒会活動等を活性化する。

※平成 31 年度においても全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭の事後アンケートにおける肯定意見 70%以上を維持する。(H28 年度 体育祭 82%、山海人プロジェクト 70%) また、文化祭事後アンケートを 70%以上にする。<H29 60%、H30 65%、H31 70%> (H28 55%) 国際交流、地域活動等の希望参加型行事の事後アンケートにおける肯定意見 80%以上を維持する。

※平成 31 年においても学校教育自己診断における生徒の部活動加入率 30%以上を維持する。部活動加入者の満足率 70%以上を維持する。(平成 28 75.0%)

(3) キャリア教育の充実

ア 「寄り添う」「粘り強い」生徒指導の展開

※生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の否定的な意見を 50%以下にする。(平成 28 年度 58.9%)

イ 人権教育の推進

※生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を 55%にする。(平成 28 年度 50.3%)

ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援

※生徒向け学校教育自己診断における「エンパワメントタイムは将来、社会人として生きていくための力がつく授業だと思う。」の肯定的意見を平成 31 年度において 60%以上にする。<H29 50%、H30 55%、H31 60%> (H28 44.4%) とする。

エ 望ましい職業観の育成と進路実現

※系統的なキャリア教育により、卒業時における進路未決定者を 10 人以下にする。(平成 28 年度卒業生のうち未決定者 16 人)

※ワープロ検定、英語検定、漢字検定等への参加者、毎年 100 人以上を維持する。

オ 国際感覚の育成

※台湾の高校との相互交流や国際理解ワークショップ、及びオーストラリアの高校とのテレビ会議など、国際交流事業を定着させる。

(4) インクルーシブ教育のさらなる展開

ア 授業のユニバーサルデザイン化を図る。

※ 平成 31 年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を 4 段階中 3.20 以上にする。<H29 3.15、H30 3.18、H31 3.20> (平成 28 年度 3.13)

イ LHR や総合的な学習の時間を活用して、互いに違いを認め合い、共に生きる集団づくりを図る活動を実施する。

※ 生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を 55%にする。(平成 28 年度 50.3%)

ウ 高校生活支援カードを活用し、必要に応じてケース会議を開く。個別の教育支援計画を必要な生徒に対して作成する。(平成 28 年度新たに作成した生徒は 1 名)

※ 高校生活支援カードの提出 100%を維持する。

エ 地域の小学校への点字の出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。

※ 平成 28 年度までの取組みを継続する。

3 人材の育成と管理

(1) 次年度第一学年担任団の任命を早期（2 学期まで）に行い、具体的な準備を行うことを通して若手教員の OJT を進めていく。また、早期に次年度担任を任命することにより、今年度の学年担任団からの引き継ぎをリアルタイムでできるようにする。

(2) 教員全体の資質向上のため、外部講師を招聘し、授業改善を中心に、人権問題、教育相談、社会人教育など、必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。 ※ ミドルリーダーや外部講師による教員研修を年間 20 回実施する。

4 地域連携

ア 地域の小学校への点字の出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。(再掲)

イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。

※ 参加依頼のある岬町内の地域行事に生徒会や部活動、有志が 1 団体以上参加する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
○寄り添う生徒指導を更なる充実を図る。 多くの項目において、生徒の肯定的な回答が増加している。遅刻指導や頭髪指導に対する肯定的な評価とあわせて、学校におけるきまりが自分のた	第 1 回 5 月 23 日 (火) ・まだまだ指導の必要なこともあると思うが、各学年の取組みは目標は、全て社会に出た時に役にたつものであるため、引続き指導をお願いしたい。

府立岬高等学校

<p>めになっていると考えている生徒の割合が全学年で増加している。また、学校に対する満足度も大幅に増加し、これまでの寄り添う粘り強い指導の成果が表れてきていると考えている。保護者の肯定的な評価は、横ばいかわずかに減少している。今後、保護者に対して積極的に情報を提供していく必要がある。</p> <p>○授業改善の取組みの深化を図る。</p> <p>教員の授業改善に関する項目において、肯定的な評価が増加している。また、ICT 機器の活用も進んでおり、「わかる授業」づくりの進化を実感できていると考えている。しかしながら、全体としては「教員間において授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」における肯定的な評価はわずかながら減少しており、より組織的な授業改善を進めていく必要を感じている教員が増えていると考えている。</p>	<p>・人権教育について、岬町でもパラリンピックへの出場に向け、頑張っている方がおられて、講演会も経験されているので、来ていただければどうか。</p> <p>第2回 10月12日(木)</p> <p>・国のほうでも、介護職員の育成に力を入れていると聞いている。エンパワメントスクールで介護職員の育成を行うのであれば、国の助成金を活用する方法もあるのではないかと。</p> <p>・エンパワメントスクールはこれからの学校教育の在り方として、文部科学省が示している方針と合致しているのも、もっと外へ発信していくべきである。</p> <p>第3回 3月5日(月)</p> <p>・エンパワメントタイムでは、生徒相手に対話形式で授業を行っているようだが、それは今の生徒にあっていると思う。大学生も同様。討論等、これからは生徒が自分の頭で考え、伝えることが大切になってくると思うので、頑張してほしい。</p> <p>・小テストでいい成績をとった時など、積極的に褒めてあげてほしい。</p>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 エンパワメントスクール開きと教育内容の確立	P D C A サイクルで組織的に取り組む。 ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを行う。 イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う。	ア 担当者を中心に、振り返りの会議を月に1回開催する。 また、次年度以降の選択科目等について、生徒の状況を踏まえた修正を行う。 イ 教育庁主催の会議に担当者が出席し、情報収集するとともに、職員会議等においてフィードバックする。	学校教育自己診断において、「モジュール授業がよくわかる」「『エンパワメントタイム』に関する項目」の肯定的な意見の割合をそれぞれ60%、50%以上とする。 (平成28年度59.4%、44.4%)	「国数英の授業は毎日30分あるので学力がつくと思う。」72.6% (◎) 「エンパワメントタイムは将来、社会人として生きていくための力がつく授業だと思う。」56.4% (○)
2 (1) 学習活動の充実	「わかる授業」「楽しい授業」をめざすとともに、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する。	・①学習環境を整え学習目標を明示して授業を始める、②身近な教材を取り上げ生徒の興味関心を引く、③メリハリ・テンポ・リズムのある授業を心がける、④考える・説明を聞く・黒板を写すなどを明確に分ける、⑤具体的にほめるという5項目の内容を教員が目標とする。 ・ICTの活用を活用した公開授業を行い、研究協議を行う。	生徒向け授業アンケート「授業展開」の項目において、全生徒の評価の平均が4段階中3.15とする。(平成28年度3.13) また、授業アンケート「生徒意識1」「生徒意識2」の平均が3.0以上になるようにする。(平成28年度2.98、3.01)	「授業展開」の項目において、平均が3.17 (○) (①3.21、②3.12) 生徒意識1 3.05 (○) (①3.09 ②3.01) 生徒意識2 3.05 (○) (①3.08、②3.01)
2 (2) 特別活動の充実	体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動等の希望参加型行事を実施するとともに、部活動、生徒会活動等を活性化させる。	・様々な行事の企画運営に、生徒会や希望生徒を参加させ、生徒が興味関心を持って取り組めるよう工夫する。 ・年度当初に、1年生に対して部活動紹介を行うとともに、業績を上げた部活動を全体の場で公表し、表彰する。 ・山海人プロジェクトの内容について、雨天時のプログラム等を検討する。 ・広報誌に活動を掲載してもらうなど、地域への発信について検討する。	・全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭の事後のアンケートにおける肯定意見70%以上を維持するとともに、文化祭では、60% (H28 55%) とする。 ・希望者参加型行事の事後のアンケートにおける肯定意見を80%以上にする。	山海人 - (実施せず) 体育祭 76% (○) 文化祭 63% (○) 国際交流 100% (◎) (アンケートは実施しなかったが、終了後の感想より評価した。)
2 (3) キャリア教育の充実	ア 「寄り添う」「粘り強い」生徒指導の展開 イ 人権教育の推進 ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援 エ 望ましい職業観の育成と進路実現	ア 生徒の礼儀やマナーについての意見を学校協議会で聞く。 イ LHR や総合的な学習の時間に、様々な人権課題について学び、考える機会を設けたり、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワークを行ったりする。 ウ エンパワメントタイムの内容を他学年のLHR や総合的な学習の時間で実施する。 エ 1年次から進路実現を目標としたHR を計画し、講演や施設見学などを実施し、職業観の育成に努める。 ワープロ検定、英語検定、電卓検定等への参加者を毎年確保する。そのために、年度当初から実施日程について生徒に示し事前指導する。	ア 生徒の礼儀とマナーについての学校協議会の意見を校外での生徒指導に反映させ、これまでの登下校時のあいさつ運動や通学路やその周辺での指導を継続する。 生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の否定的な意見を50%以下にする。(平成28年度58.9%) イ・ウ 生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が行われている。」を55%以上にする。(平成28年度50.3%) エ 卒業時における進路未決定者を10人以下にする。 各種検定等への参加者のべ300人以上にする。	ア 「高校にはいろいろきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う。」49.3% (○) イ・ウ 「人権を大切にするための学習が行われている。」47.2% (△) エ 未定者70名 (△) 漢検12名 英検11名 情報136名 ワープロ73名 電卓120名 合計352名 (○)

府立岬高等学校

	オ 国際感覚の育成	オ 台湾の高校との相互交流を継続し、交流内容の充実を図るとともに、訪問受け入れ時の参加人数をできる限り増やす。 テレビ会議の開催日程を早期に決定し、準備期間を確保するとともに、多数の生徒の参加を促す。	オ 台湾の高校の訪問を受け入れる際の参加生徒数を10名以上、台湾への訪問生徒数を3名以上確保する。 テレビ会議の企画段階から生徒が参加し、当日の進行も担当する。	受け入れ 0名(×) 派遣 5名(○) 参加 5名 (9月実施により、生徒の台湾研修参加への意識が高まった。) (○)
2(4) インクルーシブ教育のさらなる展開	ア 授業のユニバーサルデザイン化を図る。 イ 共に生きる集団づくりを図る活動を実施する。 ウ 高校生活支援カードの活用 エ 支援教育体制の充実	ア 支援教育の観点にも留意しつつ、2(1)の授業づくりに取り組む。 イ LHRや総合的な学習の時間に、様々な人権課題について学び、考える機会を設けたり、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワークを行ったりする。(再掲) ウ 高校生活支援カードを入学時に新入生全員に作成させ、生徒の状況を年度当初に共有する。また、必要な生徒に対して、個別の教育支援計画を作成する。 エ 国事業での研究成果を踏まえ、個々の生徒の能力を引き出すために、校内委員会の体制を再構築する。	ア 2(1)と同じ イ 2(3)イ・ウと同じ ウ 高校生活支援カードの提出100%を維持する。 ウ・エ 必要な生徒に個別の教育支援計画を作成する。(平成28年度新たに1名を作成)	提出率100%(○) 個別の支援計画 今年度新たに6名(計7名) 個別の指導計画 1名 作成 (○)
3 人の育成と管理	ア 早期の役割分担によるOJTの推進。 イ 教員研修の充実。	ア 次年度第1学年担任団の任命を早期(2学期まで)に行い、具体的な準備を行うことを通して若手教員のOJTを進めていく。また、他学年についても早期に次年度担任を任命することにより、引継を円滑に行えるようにする。 イ ミドルリーダーや外部講師により、授業改善を中心とする研修を行う。	ア 次年度校内人事の早期決定(1年担任を9月までに、その他の学年の担任を年内に任命する。) イ ミドルリーダーや外部講師による教員研修を年間20回実施する。(H28 26回)	1年 10月初旬(△) 2,3年 10月下旬(○) H29 17回(△) 新転任オリ、校内初任研5回、授業改善3回、岬人研フィールドワーク、人権講演、LGBT、救命救急、ICT、模擬授業、教育相談、不祥事再発防止
4 地域連携	ア 地域の小学校への点字の出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。 イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。	ア 取組みを継続する。 イ 参加依頼のある岬町内のつつじ祭り、教育フェスタ等の地域行事に生徒会や部活動、有志が参加する。	ア 取組みを継続する。 イ 参加依頼のある岬町内の地域行事に生徒会や部活動、有志が1団体以上参加する。	ア 展示出前授業(○) 車いすボランティア(○) イ 1団体以上参加(○)